

## 平成26年度第1回 愛媛県食の安全安心推進県民会議 議事概要

〔日時：平成27年1月16日（金）13：30～14：30  
場所：県庁第二別館5F 第3会議室〕

### 1 開 会

### 2 会長・副会長の選任

会長に逸見委員、副会長に舟橋委員を選任。

（会長の辞任により、副会長の逸見委員が職務を代理していたため、あらためて選出。）

### 3 議 事

#### 第2次愛媛県食の安全安心の推進に関する計画（案）について

- ・ 第2次計画案作成の考え方について、資料1に基づき説明
- ・ 施策の実施状況及びHACCP推進の動向について、資料5、資料6に基づき説明
- ・ 第2次計画案の概要について資料1～4に基づき説明

〔川本委員〕

丁寧な計画になっていると思う。

〔重松委員〕

私どものフジ精肉センターでは、愛媛県HACCP制度の認証を取得している。取得後は、従業員の意識も高くなり、表示ミス等も減って、大変喜んでいる。これを、取引先に波及していきたいという思いで、機会を捉えて紹介している。

今年に入ってからも、私どもの販売者責任から、50社くらい工場を回り、HACCPの取得を勧めたところ。きちんと記録を取り、衛生区分を明確にしておけば、取得できるからとアドバイスしている。しかし、非常に熱心に聞いていただくものの、取得まではという状況である。自主衛生管理の推進というところで、愛媛県HACCP制度における認証施設数について、50施設という目標を設定されているが、もう少し地元事業者に対するアプローチをしてもらいたいと思う。今後、どういうふうに応援していかのか聞かせてもらいたい。

また、施策の方向14の推進指標の食品衛生推進員巡回施設数の目標が減っているのはなぜか。今、異物混入等の報道が相次いでいる。もっとどんどん巡回施設を増やしてもらいたい。

〔薬務衛生課〕

自主衛生管理の推進については、愛媛県HACCP制度を普及するのはもちろん、

HACCPの考え方をどれだけ浸透させるかが重要だと考えている。

現在、県食品衛生協会に委託して、食品衛生責任者等に対するHACCPに関する研修会を実施している。今後もこれらにより、全体のすそ野を広げる取組みを行い、HACCPの考え方を広め、順次、レベルアップしていけるようにしたい。

食品衛生推進員巡回施設数については、実施回数ももちろん大切だが、巡回指導内容の充実を図りたいという思いがある。食中毒等、食品による事故の発生頻度を勘案し、リスクの高い施設を重点的に巡回したいと考えているので、ご理解いただきたい。

〔白川委員〕

HACCPに関連してだが、県では、国に先駆けて（愛媛県HACCP制度を）導入し、推進しているのはすばらしいと思う。

事務局の説明では、厚生労働省からガイドラインが出されているとのことだったが、事業者には敷居が高く参加しづらいような現状もある。やはり、国にリーダーシップを取ってもらい、また、県と国がきちんと役割分担し、一体となって、関係団体の方が参加しやすい環境を整備するなど、HACCPを推進してもらいたい。

また、数字については、先ほどの説明により理解したが、★マークがついた重視する施策がある中、この資料だけでは、目標数値の考え方がわかりにくいと思う。

〔戸田委員〕

農業関係では、これから生産工程管理が非常に大事だと思うが、どのように推進しているのか聞かせてもらいたい。今後、HACCPは積極的に進めていく必要があるし、事業者に対する強い啓蒙が必要だと思っているので、その点をお願いしておきたい。

〔農産園芸課〕

農産物の生産工程管理、GAPについては、県では、年に数回、研修会を開催しており、最近では、一昨日、開催したところである。

また、生産工程管理に関する指導ができる職員の育成等も進めており、普及拠点の普及指導員のアドバイスをいつでも受けることができるような体制を整備している。

〔逸見会長〕

普及体制を整備しているということですね。

〔西田委員〕

私も四国乳業では、国のHACCPである総合衛生管理製造過程の承認を受けている。しかしながら、HACCPでは不十分で、最近では、内部的にコミュニケーション

ョンが取れないことによる従業員の食品への意図的な異物混入対策等について、監査で聞かれるようになってきた。また、流通関係の会社からは、GFSI（国際食品安全イニシアチブ）のFSSC22000（食品安全マネジメント）の認証が求められるようになってきた。今後、従業員との十分なコミュニケーション等、食品安全を意識した労務管理も求められると思う。

〔薬務衛生課〕

フードディフェンス（食品防御）のお話だと思うが、四国乳業さんは、国のHACCPの承認を受けておられ、それに付加していく部分であり、非常に大切と思うので取組みを見守らせてもらいたい。

偶発的なものを対象としたHACCPによる衛生管理に加えて、意図的な異物の混入を防止する取組みとして、いわゆるフードディフェンスについても対応した衛生管理システムを導入又は検討している企業も多い。これは企業の経営方針につながることであり、行政からも必要な情報を提供するが、企業からも効果的な取組みがあれば紹介いただきたい。

〔松岡委員〕

今、西田委員からFSSCのお話があったが、遊子漁業協同組合は、2年前に取得している。ISO取得後、輸出も含めて取り組もうということで取得した。結構、お金がかかるし、毎日の記録による資料も膨大で、担当職員を一人つけないとやれない。やはりISOは、衛生管理が厳しいと思っている。

愛媛でISOと言っても、あまり知られていないが、東京に行くと評価が違う。私どもは、商品販売のほとんど、99%が東京なので、非常に厳しいが取り組んでいる。しかし、経営的にうまくいっているかという点、そこまでいかないというのが現状である。

HACCP制度を愛媛県で始めたことは、非常に有意義だと思う。先ほど宇和島水産高等学校が認証を取得したという説明があったが、私どもでは、宇和島水産高等学校と提携して商品開発を進めている。今後も一緒に取り組んでいきたい。

先ほどから、数値の話が出ているが、新たに回数を設定しているのか、巡回先は限定されているのか等、聞かせてもらいたい。

〔薬務衛生課〕

現在の計画による施策の実施状況を踏まえ、実現可能性を検討して、現実的な目標値を設定している。

例えば、メールマガジン登録者数は、25年度末時点では436人と、現行計画の目標2,000人には及ばない状況。当初はもっと登録していただけるものと考えて目標を設定

していたが、意識はあっても、登録までには至らないというのが現状である。第2次計画案では、目標を1,000人とし、ほぼ2倍を目指すこととしている。

[森委員]

細かく決められており、とてもわかりやすかった。

私は、給食を管理している教師という立場であるが、生産ステージや製造・加工・販売ステージで、細かく監視指導されることによって、消費する側としては、食の安全安心が図られると感心した。

学校で子供たちに食の安全安心について教えるときには、愛媛県の取組みを紹介しながら、子供たちに食の選択能力が身につくような教育をしていきたいと思う。

[舟橋委員]

第2次計画案では、現在の計画による施策を継続するとともに、海外にもえひめの食の安全安心を発信するための国際基準のHACCP導入の推進等が盛り込まれており、充実した内容になっていると思う。また、社会情勢が変化した場合には、柔軟な対応をすることも明記されており、計画としては非常によいと思う。

私自身、大学という教育現場にいることから、人材育成は非常に重要だと認識している。これらの施策を着実に実行するためには、現場の方々の意識が非常に重要であり、重視する項目とされているが、人材育成や基盤整備には努めてもらいたいと思っている。

そのあたりを考えると、例えば講習会や食育教室の開催回数が、少し減ったり、横ばいだったりするので、人材育成という観点から、努力してもらいたいという希望を持っている。

<総括>

[逸見会長]

みなさんから計画案に対するいいご意見をいただいた。

計画案への反映については、私と事務局に任せてもらい、充実したらと思う。

修正後の計画案については、パブリック・コメント実施の際に、事務局から各委員にお知らせしてもらうことで、事務局はよいか。

[薬務衛生課]

はい、わかりました。

## 4 閉 会